



学校だより

1月号



～豊かで調和のとれた子の育成～

たくましく生きる人 なかよく生きる人

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>

みのたなくん

「温故創新」を目標に

校長 酒井 浩明

明けましておめでとうございます

この年始は穏やかな天候に恵まれ、令和2年を新たな気持ちでお迎えのことと思います。

昨年の保護者、地域の皆様方の本校の教育活動へのご理解とご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、お子さまたちは充実した冬休みを過ごすことができましたでしょうか。

冬季休業前の朝会では、年末年始は、親戚等とのかかわりや、日本に古くから伝わる習慣や伝統文化に触れる機会も数多くあるので、日本の年末年始のよさを改めて感じ、考えてほしいと話しました。

感じ方は人それぞれですが、『大掃除』『正月飾り』『紅白歌合戦』『挨拶が変わる』『着物姿が増える』『春の海が流れる』『おせち料理』『七草がゆ』『どんど焼き』『鏡開き』などに、私は、日本の年末年始のよさを感じています。

皆様は年末年始のどんなことに、日本のよさを意識されますか。

1年生の保護者の皆様は、12月校内作品展では、どのようなことを感じられたでしょうか。

わら草履に驚かれた方もいらっしゃるのではないかと思います。このわら草履は、PTA役員がコーディネートしてくださった講習会で、地域の方々から保護者等のサポーターがコツを教わり、子どもたち教えてくださいました。

今年度も5年生は、地域や保護者、卒業生保護者の方々との温かなかわりの中でわら草履をつくり、そこから多くのことを学ばせていただきました。ご協力に感謝申し上げます。

また、初蒔きから始まる『農業体験活動(稲作)』が学校の教育課程の中にしっかりと位置付けられているよさを実感できる一コマでもありました。

12月号でもふれましたが、学校では年末から今年度の教育活動振り返り、新年度の準備を始めています。

昨年末には、「よりよい学校づくりのアンケート」へのご協力を



<校舎前植木鉢の小松菜>

いただきありがとうございました。

今回から紙による調査ではなく、PCやスマートホン等からの調査としましたので、昨年度までとは単純に比較できませんが、概ねよい評価をいただきました。

令和2年度は、新学習指導要領の完全実施による様々な変更、外国語の教科化、プログラミング教育やITCの活用、教員の働き方改革と時間外勤務の上限の法制化などとともに、本校では、児童数減少に伴う学級数や教員数の減の可能性への対応、経験の浅い教職員のOJTによる育成などにも、対応する必要があります。

このためには、「温故」の視点だけではなく、今後の社会変化を見通しながら、「温故創新」を目標に、限られた時間の中で、よりよい教育が実施できるよう工夫・改善や選択・集中を進めていく必要があります。

よりよい学校づくりアンケートのご意見や結果を受け止め、将来のよりよい田奈小学校像を考えながら検討していきたいと思っています。

また、地域の方々からは、「まちとともに歩む学校づくり懇話会」においてご意見を伺います。ご協力をよろしくお願いたします。

後期の後半の登校日数は、53日と大変短いです。6年生は卒業式まで50日です。

学年・学級でのよりよい思い出が一つでも増やせるよう、子どもたちの学びや学校生活が充実するよう支援に努めてまいります。